

編集・発行：◎倉敷芸術科学大学図書館 (〒712-8505 岡山県倉敷市連島町西之浦 2640 TEL. 086-440-1181 FAX. 086-440-1182) 編集・発行責任者：館長 山岡萬謙(教養学部教授) 編集者：館員 井上弘行・橋本直幸 館報は図書館ホームページでも読めます。 http://www.kusa.ac.jp/lib/MAIN.HTML



題号の由来 孔子と弟子たちの言行を取録した「論語」の「子曰、「学而不思則罔。思而不学則殆。」(「先生が言われた、「学んでも考えなければ、はつきり理解できない。考えても学ばなければ、確かなものとならない」)の意)による。読みは日本語の音読みとした。初代学長谷口澄夫先生の筆による。

# 図書館の活用!!

## 知的資産の充実・学術研究の推進



学長 土井 章

ターネットを通じ、知識を求め人々に向かつて世界を循環することを可能にしていくのです。本学でも本年度から独自のコンピュータシステムを保有する方向に動いています。これにより、利用環境が大幅改善されるという事は言うまでもありません。これは、開かれた未来志向の大学を目指す本学にとりまして大変喜ばしいことであります。ここで、本学図書館の題号になっております「学而思」に触れたいと思います。初代学長谷口澄夫先生の筆による「学而思」は「学んでも考えなければ、はつきり理解できない、考えても学ばなければ、確かなものとはならない」という事を意味しています。つまり、学ぶことと考えることのバランスを上手にとる努力と持続性が良い結果を生み、広い知識と創造性を育ててゆくことこそ、諸君にとって肝要となるのです。多くの学生諸君が自らの学習意欲や知的要求を抱き、本学図書館を大いに活用されることを強く希望し、私の挨拶といたします。

倉敷芸術科学大学が開学して5年目を迎え、本年度より3学部に加え大学院を開設し、極めて専門性の高い学術研究の推進に努めております。更なる知的資産を充実させる為には、多種多様な情報資料を保有する図書館の利用が必要不可欠なものとなります。 大学図書館は、利用者の多様なニーズに応えるべく大学における教育研究・学問等の諸活動に対して各種の支援を使命とし、機能して参りました。近年、図書館も大きな変動期を迎え、これまでの状況とは一変し、蓄えられた知識・情報は大学内部だけに留まらず、学外に向かって流れ出そうとしています。それは電子化された情報としてイン

図書館で以前からお知らせしていましたが、図書館の新コンピュータシステムが6月下旬より稼働を始めましたので、概要についてお知らせします。

### 「新図書館システムの特徴」

- ① 分散処理ができるネットワーク対応型のシステム(クライアント・サーバー型)。
- ② 原則的に図書館の所蔵検索を図書館外から24時間行える。
- ③ 図書館外からの所蔵検索において特別なソフトを必要としない(一般的なブラウザからインターネットによる検索が行える)。
- ④ GUIによるウインドウズの検索画面

## 図書館新コンピュータシステム 6月下旬より稼働開始

⑥ 学生証(ICカード)と連動して学生証による貸出が行える。 以上のように、今までのシステムよりも利用者にとって扱いやすいシステムになっています。

### 「新システムの構成」

システム構成としては、サーバー3台、業務用端末3台、貸出用端末1台、利用者用端末3台で構成され、LAN接続により図書館のルータを通じて外部からの接続も可能になっています。 サーバーを業務用と検索用に分けることにより、利用者の所蔵検索時の負荷を軽減しスムーズな検索が行えるようになっています。 また、サーバーを分離することによりセキュリティの確保を行っています。 利用者検索用端末は、図書館に3台しかありません。が、研究室、講義室、事務室、自宅等からインターネットによる検索が行えますので、所蔵確認等で有効に活用できます。

### 「新システムの利用法」

● 所蔵検索の方法について 検索の操作方法は、一般的にインターネットを利用していただけると思います。書名、著者などの該当項目

に入力し検索ボタンを押せば、該当する図書を検索結果ならびに所蔵情報も表示されます。 後は所蔵情報を見て、その図書がどこにあるか、現在、借りられているかなどの情報を参考にしたいの図書を探し出せます。

● 図書の貸出について 従来は、図書館発行の図書利用カードで貸出を行っていましたが、学部生に関しては学生証での貸出になります。現在利用されている図書利用カードは利用できなくなるので、ICカードへの図書カード利用登録を必ず行ってください。 ● 学外文献の申込みについて 相互利用申込みの画面(図書館ホームページ)の操作方法が変更されます。利用に際してはパスワード登録が必要になるので、図書館にパスワードの申請をお願いします(原則的に利用申請をされた翌日から利用できるようになります)。

現在、メールからの申込みとインターネットからの申込みを併用していますが(利用者のブラウザに制限があったため)、これからはインターネットからの申込みができるようになります。 ついては、インターネットからの申込みをご利用ください。

# 「軌道にのる機械化、その業務」

## 電子図書館への第一歩!?

新コンピュータの稼動が、いよいよ始まりました。検索用端末は、皆さんに馴染みです。が、事務機では、どんなことが行われているのでしょうか。L I M E D I O の新鋭機に合わせて館員と共に横顔を散策し覗いてみましょう。

ときに、要求している本がいち早く見つけられるのは、この「並び」の御陰です。そして、その並びこそが機械の果たす大きな任務といえます。

まず、図書館に所蔵されている主たる本の数々を私たちは、「資料」と呼んでいます。資料は、「整理」されること

が簡単な手続きで資料を借りられるのも、こうした機械の御陰といえましょう。ここで、先程の整理作業に戻ってみます。

では、その「整理」とは、何なのでしょう。来館される

①発注  
②受入  
③装備  
④排架

と、書架に並ぶ沢山の資料が目に見え込みます。それらは、決して無造作に並んでいるのではありません。

図書館の資料は、どの一つをとってみても、この四つの行程を経ています。さらに、例えば、この中に「目録管理」という重要な作業も控えています。また、それぞれの個々の作業は、例えば、「受入」



「にこやか雰囲気」  
カウンタ

資料の内容からNDCに沿って並んでいるのです。皆さん方が、図書館を利用される

### ●「発注」

これは文字通り、これから本を入手しますよ、ということとです。業者に向けて本の注文をする、図書館として最初の仕事です。ここでの主な操作は、機械に「これこれの本を注文するよ」ということを、教え込むことにあります。書名に限らず、いろいろと画面を通して教えます。もちろん、「発注票」というものが印刷され誤りのないよう、それをもって本屋さん注文を出すこととなります。



「発注」  
一意専心で取り組む館員

### ●「受入」

注文をしておいた本は、やがて本屋さんから納入されます。ここでの大きな目的は、「これこれの本が入ってきた」ということを機械に示し、併せて会計上の対応ができるようにもって行くことです。内部手続きには、細かい約束事が山のようにあり、新機械システムといえど、それらの皆がルール化されているのではありませんから、担当者は一冊一冊に全神経を注がなければならぬ、大変な箇所です。

### ●「装備」

「バーコード」、皆さんはご存じだと思います。本を借りていただく際、「カウンタでの待ち時間を少しでも少なくすること」、この役割を担っているものです。装備は、このバーコードとか返却期限票などの貼付で、本がいよいよ書架にデビューする最後の衣装付けのようなものです。これは、機械化の対象とはなりません。



「受入」  
スピーディこそ本命

### ●「排架」

本は書架に羅列してあるけど、利用者からすると、どんな資料が、何処に、あるのか素早く分かるといいですね。資料検索時の書名とか著者、あるいは出版元等々の、



「見つかったー」  
素早い検索のOPAC

「書誌情報」は、万国共通でなければ存在の意味が薄れます。これらは、目録管理として先の行程と三位一体をなし、乱れないように日々、努力を重ねています。こうして、全作業が整いますと、その本は、ようやく排架を迎え皆さんの手の届く態勢となります。OPACでの検索対象となるのも、この段階からです。

一度皆で振り返りたく思いますが、苦労を重ねて戻って来るまでは、正に隠れた館員の地道な努力のあることも忘れないでください。こうして業務の流れを紹介し、日々電子情報に浸っておられますと、それは、「電子図書館への第一歩」としての鼓動すら聞こえてきそうです。



「花園」  
一日ポイント



江戸時代版本  
「一休咄」

### 近世小説研究への契機



教養学部助教授 山崎 宏暉

瀬戸内の一都市に生まれ育った私が、ともかく近世文学に関心を懐いたそもそものが近世後期小説、いわゆる戯作類への興味であったことは、我ながら不思議である。それから三十年あまり、研究上では放浪的な生活であったが、戯作への興味は絶えず続いて、何時かそのおもしろさほどの辺に存するかを説明したいものだ、と考えるようになった。

ちやうどそのころ京都妙心寺の一室で、著名な方に会うのを億劫がっていた私に、その研究・著述では多くの恩恵をいただいている、今はお二方とも故人となられたが、野間光辰、中村幸彦両先生にお目にかからなければならぬ機会があった。聞かれるままに、

戯作を少し理解してみたいと語ったが、先生方からは地方の者には難しいだろうというような内容の忠告をいただいた。半分はごもっともだと考えたが半分は反対の気持ちも働いた。先生方のようによくお分かりの方には、いままら酒落の説明などという野暮はなされるまい。そんな野暮な部分は江戸や上方の血のかけらもない私どもの方が向いているかも知れないと思う一方、地方の人間に理解し難いものと、読み方、考え方、それは手にとるように教えていただいた。その時、真下先生から勧められたのは、断本から入るのが易しいであろうから、断本をできるだけ読め、それも活字本ではなく版本を読めということであった。

そこで復刻版の断本を手当たり次第に読んでいたが、ある年、たまたま神田の古本屋で見出したのが「一休咄」上下二冊と「二休諸国物語図会」五冊である。殊に「二休咄」は表紙も擦り切れ、本文も虫食いだらけであったが、それまで虫食いなど全くない復刻版にしか接したことのない私には、それが何か本自体は古く薄汚いの、何か新鮮な感動を覚えさせた。大学院生の私には高価な買物であったが、無理を承知で入手した最初がこの二種の断本である。刊記も題簽もない「二休咄」は、今思えば私を本格的な近世後期小説の研究に立ち入らせる契機を作ってくれた書籍だったのである。そう思うとこれから後、一生涯手放せない、愛着のある書物と言わなければならぬ。何か研究上行き詰まった時は今もこの書に戻って読み直している。

## 近隣図書館訪問記

倉敷市立水島図書館  
レポーター 教養学部4年 田中 三恵

今回訪ねた水島図書館は、水島の中心にある水島中央公園の一角に位置している。前面はガラス張り、フロアーから図書館を覗んで立ち並ぶ木々が見え、落ち着いた雰囲気の中で読書を楽しむ事ができる。老人や身体の不自由な人々のことも考えてワンフロアー方式が取り入れられているため、館内全体が見渡しやすい。目当ての本も探しやすい。フロアー前面の一番、日の光が入る場所には、幼児向けの絵本が所狭しと並び、家族連れが多いためか、ゆったりとしたスペースがとられている。土屋久利館長のお話では、水島図書館では子供たちに本に親しんでもらおうと、週4日、赤ちゃんから幼児までを対象とした絵本の読み聞かせの時間を設けているとのことだった。それに伴い、付近の幼稚園や小学生の児童もかなりこの館を利用している様子がかげえる。子供たちだけでなく、

### 芸科大生も利用

「地域の人が親しみやすい図書館作り」を目指しているだけあって様々な年齢層の人が利用しているようだった。芸科大の学生にも利用者は多く、地域にうまく溶け込んでいる図書館だ。ここは昭和49年に誕生し、今年で25周年を迎える。その後、昭和60年に改築工事を行い、現在の外観となる。昭和63年にはオンラインを稼動し、これによって、ここに置いていない専門書なども中央図書館からすぐに取り寄せられるようになり、利用しやすくなった。職員は8名で少し忙しいが、1ヶ月に一・二回程度、芸科大の学生などがパートで手伝いに来たりする事もあるそうだ。一度に借りられる本の数は20冊までで、期限は15日間。利用者の中には家族のカードも利用して一度に40冊ほど借りて帰る人もいるそうだ。本の種類も豊富で、先程の絵本の数もさる事ながら、一般図書なども14万冊あまり揃って幅



水島図書館案内  
〒712-8064  
倉敷市水島青葉町4-40  
電話(086)446-6918

広い。リクエストサービスもあり他の図書館から取り寄せってもらう事もできる。また共通カードによって、倉敷市内の4つの図書館が関連している。図書館では、リクエストされた本が少しでも早く借りられるようにと様々な努力がなされているが、借りた本はきちんと期限内に返却する、という事が大前提にある事を利用者は忘れてはならない。この図書館を訪れて、図書館とは決して堅苦しい書物ばかりを並べた、一部の人だけが利用する場所ではなく、人々にとって憩いの場所であるという事を痛感し、この水島図書館はまさしくそういう場所である事が分かった。現在リクエストカードも受け付けているので、まだ行った事のない人には是非一度足を運んでもらいたい場所である。

# 倉敷芸科大学生諸君!

直木賞作家

出え根達郎



図書館は、本を読むところ、と思っ  
ている人がおります。まあ、それに違  
いないのですが、あまり狭く考えてし  
まうと、利用の仕方も限定されます。  
図書館は、本のある所です。た  
くさんの本が置かれてある場所  
です。

## 図書館浴

もある。雑木、という語があるけれど  
も、しかし、どの木も何かに役に立つ  
ものである。一本として、ムダな木は  
ありません。

これを、森にたとえる方がおります。  
古今の知識人があらわした知識の森。  
それが図書館である、というのです。  
本の一冊一冊が、樹木だというわけ  
です。細い木もあれば、何百年という樹  
齢の大木もある。

使用方の問題です。使う者の判断ひ  
とつです。雑木といえども、床の間に  
使えぬわけではない。なまじの銘木よ  
り、よほどしやれた床柱に使えるかも  
知れません。

何かのつかえ棒に使うような木も  
あるし、床の間の柱に用いる貴重な木

森林浴、という言葉をご存じです  
ね? 樹々の酸素を浴びて、心身を清め  
る。近頃評判の、一種の健康法であり

ます。  
図書館に、一定時間、身を置くこと  
で、図書の「気」を取り込む。これを  
「図書館浴」と称している知人がおり  
ます。

本を読むわけではない。書棚の本を、  
漫然とながめている。ただ、それだけ。  
いらいらした気分が、いつのまにか、  
雲と散り、霧と消えていくそうです。  
心がうつつしている時は、本を読む  
気になれません。

しかし、本をながめることには  
きる。背文字を読んでいるだけで、  
ふしぎに、心がなごむそうです。

本というものは、実に妙な力を持っ  
ております。内容だけが、本の取り得  
ではありません。姿や形もまた、何ら  
かの意味を持ち、私たちに訴えている  
のです。

図書館浴、お試しあれ。

## 図書館

### 忙々日誌

- 1月▽6 図書館開館
- 2月▽10 4年生貸出期限
- 固定▽12 雑誌架、視聴覚架増設(写真)
- 3月▽17 大学院資料排架(図書262冊、雑誌88種、視聴覚資料44点)▽23 第1回学位記授与式
- 4月▽1 新館長山岡萬謙教授着任▽5 入学宣誓式、式後開館▽6 新入生オリエンテーション、「図書館利用」について説明(山岡館長、井

- 上課長)。
- 図書館利用ガイド、図書館報第3号配布▽7 在学生オリエンテーション、図書館報第3号配布▽8 新入生、「図書利用カード」配付開始▽27・28 第47回中国・四国地区大学図書館協議会、および私立大学図書館協会中国四国地区協議会総会出席(山岡館長、瀬良事務長)
- 5月▽6 館内案内開始(教養学部新1年ゼミ生)▽7 冷暖房切替▽11 岡山県公立大学図書館協議会第7回研修委員会出席(近藤)
- ▽20 岡山県公・私立大学図書館協議会平成11年度総会出席(瀬良事務長)▽25 倉敷

- 市立水島図書館取材訪問(山岡館長、井上課長、教養学部生4年田中三恵さん)▽26・27 図書館新コンピュータ搬入
- 6月▽9 山寄助教授の図書館報用写真撮影▽15 土井学長の図書館報用写真撮影。館内蛍光灯安定器交換▽18 新コンピュータシステムの検収▽24 新システム運用開始
- 7月▽1 学部生、学生証(Cカード)貸出開始▽16 学部生、長期貸出(返却予定10月1日)開始。岡山県公・私立大学図書館協議会第8回研修委員会、および第1回研修会出席(近藤)▽19 旧システム

- 了してシステムクローズ
- 8月▽1 夏期休業形態運用(9月23日まで開館時間9:00~17:00)▽7 図書館閉館(7、19日)
- 9月▽24 オリエンテーション、図書館報第4号配布



雑誌・視聴覚架増設

お断り 第3号の予告欄で、第4号では「なぜ減らない図書館の未返却」を特集する旨をお知らせしましたが「新コンピュータシステムの導入」を特集することに変更しましたのでご了承ください。

## 見愚天牛

昨、昨年、全国学校図書館協議会が実施した読書調査による憂慮すべき現状報告がある。それは、一ヶ月間に一冊も本を読まなかった子どもは、小学生(4年生以上)が16・6%、

中学生が47・9%、高校生が67・3%、であるという。こうした子ども読書離れ対策として、今年度から学校始業前の十分間、「朝の読書」活動が広がっている。この活動が急増した現在、中国地方では約400校が取り組んでいる。読書感想文や読書ノートなどは強要せず、漫画以外なら自由に、興味中心に読ませているようだ。読書意欲と習慣をねらっているのである。

学校図書館法では、小・中・高の学校には学校図書館を設けなければならないという設置義務が明示されている。そして、日本の児童、生徒一人あたりの学校図書館蔵書冊数は最新の統計(1983年ユネスコ統計)では、9・9冊である。ちなみに、最も多いのはスウェーデンで、22・1冊である。アメリカは12・2冊、韓国1・22冊、スペイン0・3冊、ベルギー0・06冊という数字があげられている。これらの数字は先進国と発展途上国との較差を歴然と示しているのではあるまい



か。しかし、蔵書数の増設は切望してやまないが、何としても読書するという絶対姿勢が前提とならねばならない。テレビで「なんでも鑑定団」という古美術鑑定の実演を放映している。これを見ていると、日本人がいかに物品を大切に出来たかがわかる。もともと、貧困性の故か質素節約という美德の故か、日本人は衣食住のすべてについて、粗末に扱うことを厳しく禁じてきた。その伝統のうえに書画骨董の類が時空を越えて存在しているのである。そうした日本人の伝統美は現在、使い捨ての名のもとに消え去ってしまった。自分の持ち物すら大切にしない。ましてや、公の物においてはなおさらである。公衆道徳は先進国の度合いを計る尺度となる。図書館の蔵書は消耗品ではない。多くの人が、長い年月にわたって利用する貴重な公共物である。知的探究者としての社会性をもって対処してほしいのである。書物は学ぶ者にとっては、彼我の至宝であることを銘記していなければならぬ。